

南砺市エコビレッジ構想

平成 25 年 3 月

南 砺 市



目次

序. はじめに	1
序-1 構想策定の背景と意義	1
1. 構想策定の背景	1
2. 意義	4
序-2 構想の全体構成	4
1. 構想の構成	4
1. 南砺市エコビレッジ構想	5
1-1 構想の基本的な考え方	5
1. 基本理念	5
2. 基本方針	6
1-2 構想の全体像	7
1. 施策の体系	7
2. 基本方針別の具体的な取り組み事例	9
2. 桜ヶ池エコビレッジモデルの展開	14
2-1 モデルの基本的な考え方	14
1. 重点的な取り組みの論点	14
2. 桜ヶ池エコビレッジ宣言	15
3. ゾーニング	16
2-2 モデルの重点事業	18
1. 重点事業の体系	18
2. ゾーン別の重点事業事例	19
3. 重点事業の全体像と今後の進め方	24
4. 事業の推進体制	25

序. はじめに

序－1 構想策定の背景と意義

1. 構想策定の背景

(1) 背景

2008年に起こったリーマンショックでは、それまでの成長と効率を重視する経済優先の社会の不安定さが明確になりました。さらに、2011年3月の東日本大震災と原子力発電所の事故では、多くの方々の犠牲と今も続く避難と再生への努力から、いのちの尊さと豊かな人間関係の重要性を学びました。

南砺市では今後、人口の減少や高齢者世帯の増加、そして温暖化や気候変動等、様々な変化が予測されています。その中で、人と人、そして人と自然の関係を改めて問い直し、目に見えない豊かさが実感できる地域を、「新しい暮らし方」でどうデザインしていくかが問われています。

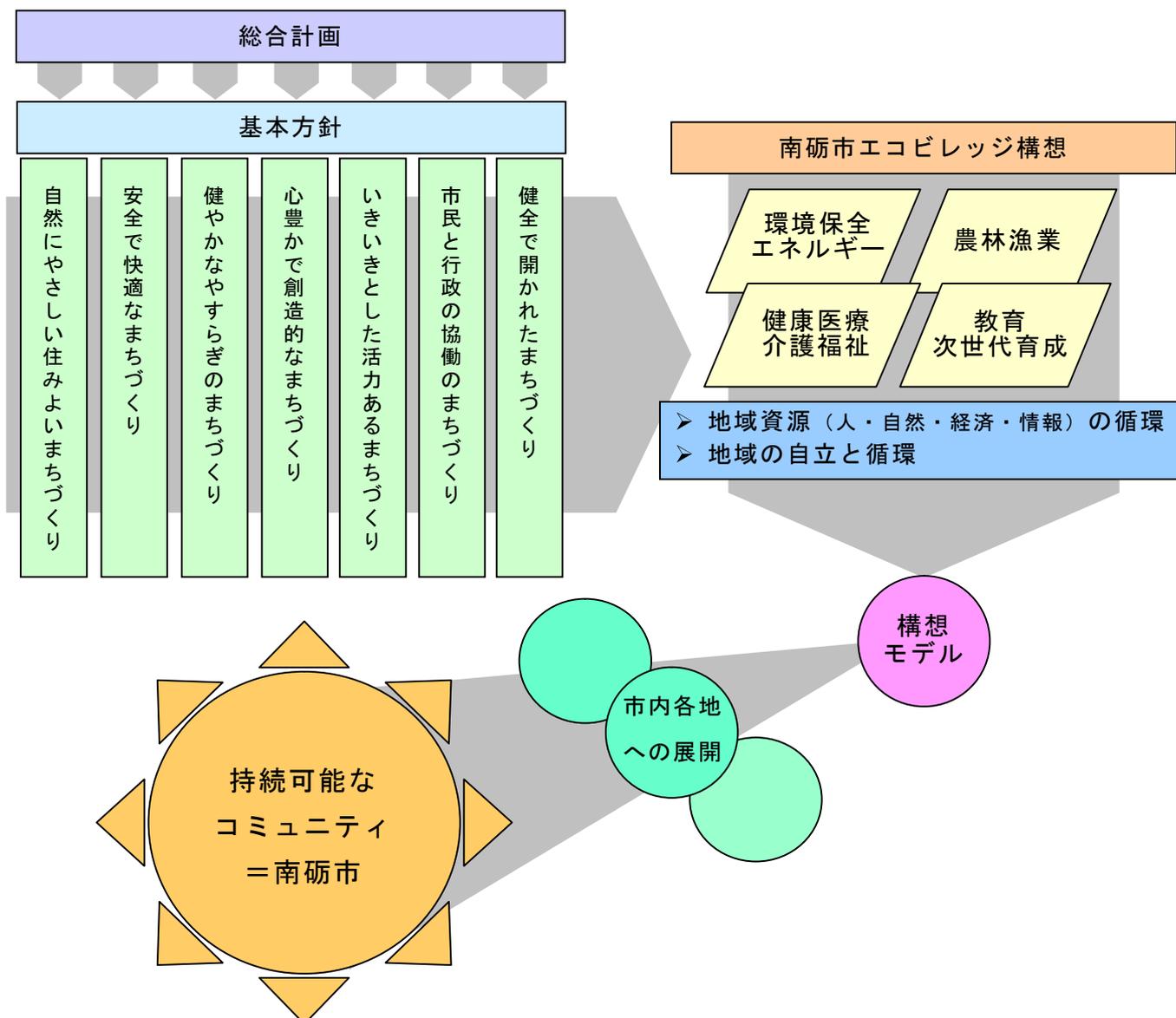
市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えています。そのためには、まずは思いを共有するビジョン（構想）を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要です。その第一歩として市では、次代を担う子どもたちが安心して、そして地域に誇りを持ちながら暮らし続けていくための「エコビレッジ構想」の策定に着手しました。



(2) 位置づけ

南砺市エコビレッジ構想（以下、「本構想」）は、総合計画に基づく諸施策とともに、南砺市と市民の協働によって、地域資源（人・自然・経済・情報）の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示すものです。

■ 南砺市エコビレッジ構想の位置づけ ■



【コラム】

➤ エコビレッジ

これまでの物質的・金銭的豊かさと効率性を追求してきた物質エネルギー文明を見直し、いのちを営々とつなぎ、地域内での資源の循環と地域の自立を目指す新しい暮らし方によるコミュニティ。そこでは、森里海連環が実現され、自然との共生の中で、利他の心が育まれ、エネルギーと温かいお金が地産地消され、いのちが営々と過去から現在、未来へつながれる、持続可能な豊かさが実感できる社会。（エコビレッジフォーラムより）

➤ 循環型社会

大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会に代わるものとして提示された概念。製品等が廃棄物等となることを抑制し、次に排出された廃棄物等についてはできるだけ資源として適正に利用し、最後にどうしても利用できないものは適正に処分することが確保されることにより実現される、「天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減された社会」。（環境省「循環型社会形成推進基本計画」より抜粋）

(3) 市民の関わり方

本構想では、エコビレッジ構想の趣旨に賛同し、多様な関わり方でその実現に参画する市内外の人々を「志民」と呼んでいます。

「志」を持つ「民」ひとり一人が主役となり、取り組みの輪を広げながら、自立した小さな循環を創り上げることにより、協働のまちづくりや地域内分権の推進にもつながっていきます。

①意識を高める

アンテナを張り、様々な媒体からの情報を集め（本や雑誌を読む、人の話を聞く、インターネットなどで調べる等）、知識を高める立場です。

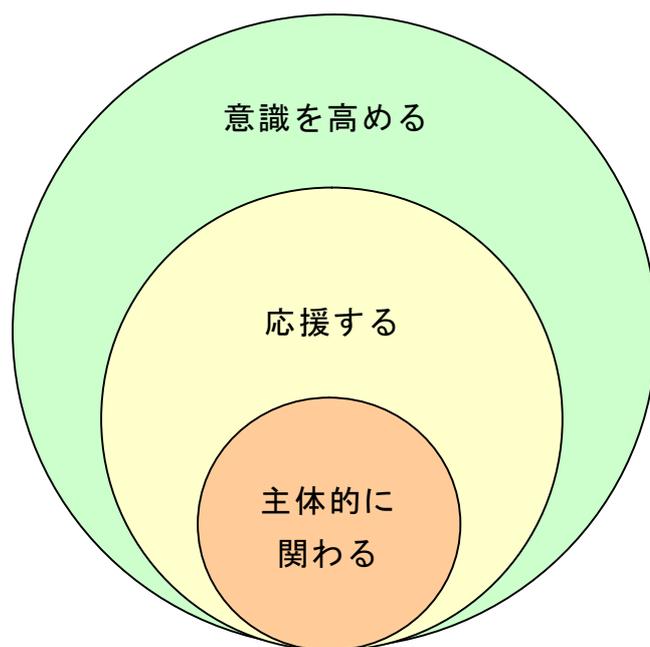
②応援する

運営の手伝いや商品を買って支えなど、取り組みを支援する立場です。

③主体的に関わる

企画や運営、関係者との協議・調整、情報の受発信などの取り組みに主体的に関わる立場です。

■ 志民の南砺市エコビレッジ構想への関わり方 ■



2. 意義

本市では、南砺市総合計画後期基本計画（H24～H28）において、「誇り」「元気」「共生」の視点で重点施策を選定しており、「エコビレッジ構想の推進」もその一つと位置づけています。

本構想は、エコビレッジにおける地域づくりの基本的な考え方やその実現に向けた取り組みを示すものです。まずは、取り組みのモデル（桜ヶ池エコビレッジモデル、後述）を創り出し、さらには、市内各地へとそれぞれの地域特性に応じたエコビレッジの展開を図ります。そして将来は、市全体が新たな暮らし方を実現する、全国に先駆けた地域となることを目指しています。

なお、本構想は、2012年9月末から6ヶ月間、概ね月1回の頻度で開催した「エコビレッジ志民会議」（以下、「志民会議」）の議論により多くを構成しています。



序－2 構想策定の全体構成

1. 構想の構成

本構想は、序章、第1章、そして第2章で構成されています。

第1章では、南砺市におけるエコビレッジの考え方や取り組みについて、総合計画の諸施策との連携・連関を明示し、より効果の高い取り組みとなるよう、基本理念や6つの基本方針とともにその方向性を示しています。

第2章では、桜ヶ池エコビレッジモデルの考え方や取り組みについて、志民会議での議論を基に、10の重点事業を具体的なイメージとともに示しています。

1. 南砺市エコビレッジ構想

1-1 構想の基本的な考え方

1. 基本理念

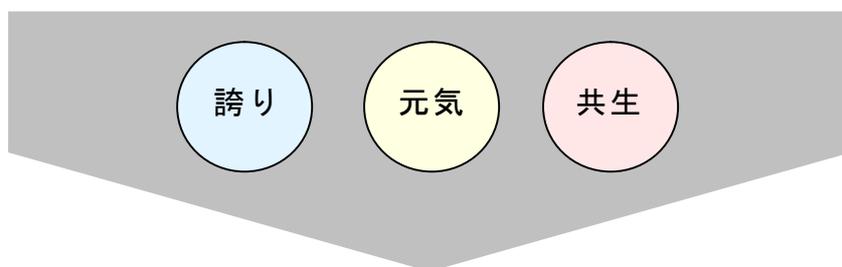
ここに挙げる理念は、総合計画に掲げる将来都市像「さきがけて 緑の里から 世界へ」の精神を踏まえ、子や孫、そして幾世代も繋がるエコビレッジを具現化するためのものです。

総合計画の施策展開にあたっては、「誇り（安心・定住）」、「元気（産業・子育て・人づくり）」、「共生（協働・環境）」のキーワードで将来を展望しており、本構想においてもこうした視点も共有しつつ施策を推進します。

【総合計画の将来都市像】

さきがけて 緑の里から 世界へ

美しい日本の原風景が息づく南砺市。
世界遺産・五箇山合掌造り集落やおだやかな散居の自然環境。
日本や世界の各地へ活発にネットワークを広げ、進取の気風に富む南砺市から新しい文化と産業がはばたく。
世界に誇れるどこにもない都市をつくるため、市民と行政がともに夢や目標に向かって果敢に挑むまちづくりの姿がここにあります。



【基本理念】

小さな循環による地域デザイン

本構想の大切な視点は、自然と共生し、地域資源を最大限に活用しながら、次の世代へのちを繋いでいくことにあります。

エコビレッジでは、様々な小さな循環が相互に連動し、支え合いながら自立するコミュニティをデザインしていきます。

2. 基本方針

1. 再生可能エネルギーの利活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成

公共施設をはじめとする各施設等への再生可能エネルギーの導入により、新たに蓄積される技術の活用と展開を進めるとともに、水車や天日干し等の先人の知恵を再評価していくなど、私たちの暮らしに様々な形で再生可能エネルギーを活用していきます。

2. 農林業の再生と商工観光業との連携

地域が自立し、活力を持ち続けるために、社会経済情勢の変化に柔軟に対応し、消費者の多様なニーズに応えられるよう、農林業の再生と商工観光業との連携を強化し、付加価値の高いものづくりに取り組みます。

3. 健康医療・介護福祉の充実と連携

高齢化率の高い南砺市において、集落単位の身近なコミュニティを基本に地域の人々が生涯を安心して心身ともに健やかに暮らし続けられるよう、健康医療・介護福祉に関わる施設やサービスの充実と連携を図ります。

4. 未来を創る教育・次世代の育成

少子化や小世帯化に伴い子育て環境も変化する中、家庭だけでなく学校や地域が持つ伝統や文化、先人から受け継ぐ暮らしの知恵や技など、様々な体験を通じてたくましい心と体、豊かな感性と創造力に富む人材（財）の育成に取り組みます。

5. ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進

南砺市が進める協働のまちづくりをさらに強化・拡充し、地域社会の課題解決に向けて、志民、企業、行政など、様々な主体が協力しながら自立循環する中で新たな起業や雇用の機会を生み出し、地域の活性化や行政コストの削減につなげます。

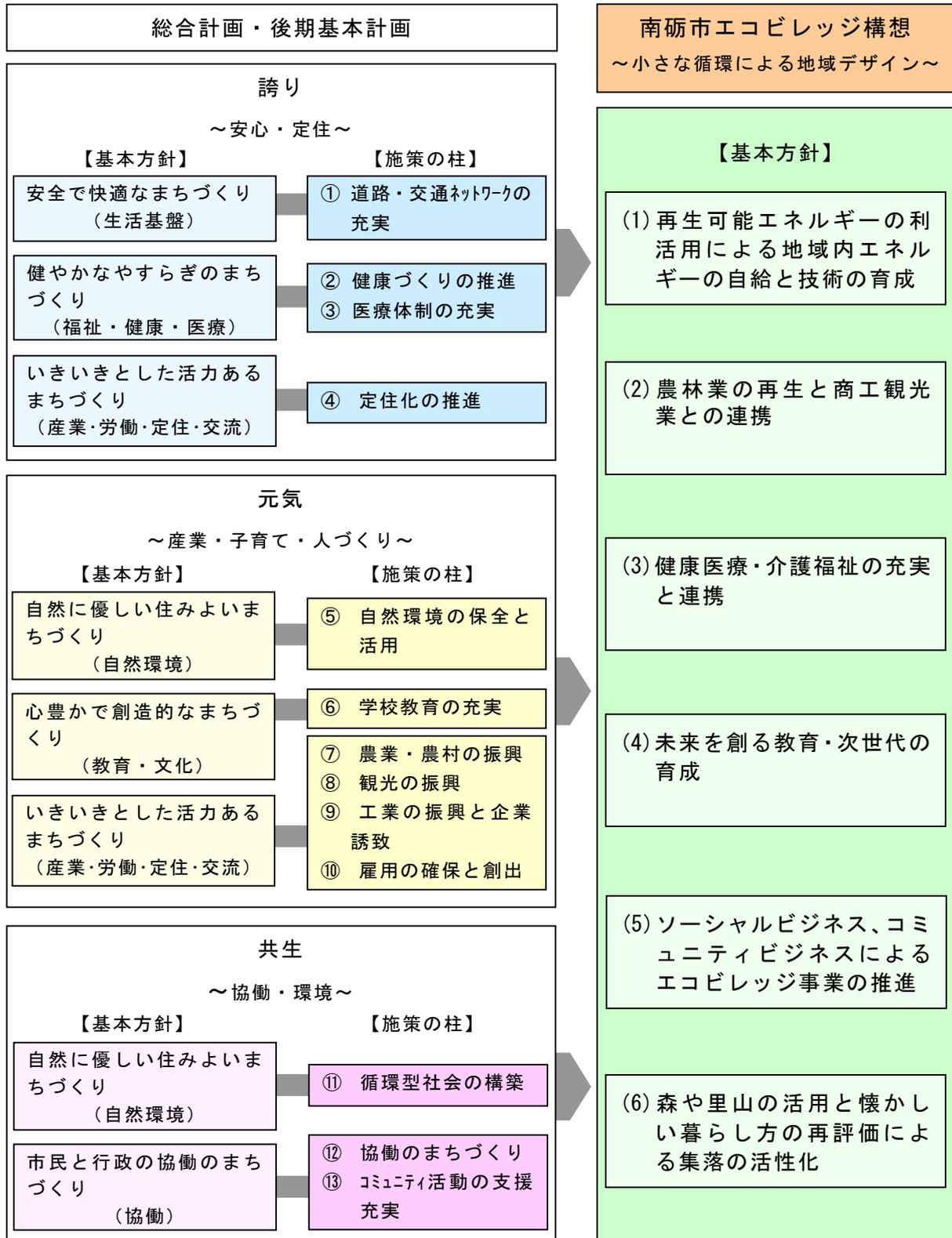
6. 森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化

山野草や山菜、炭、木材など、森や里山の恵みと日々の暮らしが密接に関わっていた暮らし方を再評価し、こうした営みを新鮮かつ魅力的に感じられるよう、人々の気（木）遣いで、森や里山の循環を再生し、集落の活性化につなげます。

1-2 構想の全体像

1. 施策の体系

本構想の基本方針は、総合計画後期基本計画に掲げた「誇り」、「元気」、「共生」の視点に基づく施策の柱のもと、推進される重点的な取り組みと連携を図りつつ、6つの基本方針によって様々な取り組みを進めます。



注) 施策の柱は、本構想に関連する項目を抜粋

■ 施策の体系 ■

南砺市エコビレッジ構想の基本方針						
	(1) 再生可能エネルギーの利活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成	(2) 農林業の再生と商工観光業との連携	(3) 健康医療・介護福祉の充実と連携	(4) 未来を創る教育・次世代の育成	(5) ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進	(6) 森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化
誇り（安心・定住）	①道路・交通ネットワークの充実 ➤城端線活性化の推進	—	②健康づくりの推進 ➤健康づくり事業の推進 ③医療体制の充実 ➤地域包括医療ケアシステムの構築	④定住化の推進 ➤定住促進への支援	—	④定住化の推進 ➤定住促進への支援
元気（産業・子育て・人づくり）	—	⑦農業・農村の振興 ➤農業経営基盤の強化 ⑧観光の振興 ➤観光資源の開発と活性化 ➤滞在型・体験型観光の推進 ⑩雇用の確保と創出 ➤就業・雇用の対策	—	⑥学校教育の充実 ➤健やかな心と体の育成 ⑦農業・農村の振興 ➤食育・地産地消の推進	⑨工業の振興と企業誘致 ➤起業（家）支援 ➤新産業の創出	⑤自然環境の保全と活用 ➤豊かな森づくりの推進 ⑦農業・農村の振興 ➤農村環境の保全整備
共生（協働・環境）	⑪循環型社会の構築 ➤バイオマスの利活用の推進 ➤新エネルギーの利活用の推進	—	—	—	—	—
	⑪循環型社会の構築 ➤エコビレッジ構想の推進 ⑫協働のまちづくり ➤協働事業の推進 ⑬コミュニティ活動への支援 ➤地域拠点施設の整備					

※表中○内番号は総合計画後期基本計画の施策の柱（前頁）と整合、➤は主な取組み

2. 基本方針別の具体的な取り組み事例

(1) 再生可能エネルギーの利活用によるエネルギーの自給と技術の育成

①道路・交通ネットワークの充実

➢ 城端線活性化の推進、2次交通機能の強化

【主な事業】

- イベント開催等による利用促進策の検討
- 駅周辺の環境整備による利便性の向上
- EV交通システム

注) ○：事業、●：構想の重点事業（以下、同様）



「なんバス」の運行拡充

市内の2次交通機能強化に向け、城端駅から地域内移動を誘発する市内主要施設の集客促進に取り組むとともに、「なんバス」や観光協会のレンタサイクル等の連携を強化し、再生可能エネルギーも活用した新公共交通システムの運用に取り組みます。

①①循環型社会の構築

➢ 再生可能エネルギーの利活用の推進

【主な事業】

- 3R（リデュース、リユース、リサイクル）意識の啓発
- 再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等）の利活用に対する調査研究及び情報提供等の支援
- エネルギーの自給率向上



再生可能エネルギー・イメージ

循環型社会の構築に向け、地域資源を再評価し、なんと里山なりわい塾のバイオマス活用やきくばり、南砺オリジナル水車など、先行プロジェクト等とも連携を図りつつ、一般家庭や事業所、学校における再生可能エネルギーの利活用促進に取り組めます。

①②協働のまちづくり

➢ 協働事業の推進

【主な事業】

- まちづくり基本条例の普及
- 協働のまちづくりモデル事業の推進
- 協働のまちづくりリーダー養成事業の推進
- 地域づくり支援員の設置



七転び八起き塾

南砺市まちづくり基本条例に基づき、地域づくりに参画する志民、市民団体、企業、NPO、行政が解決すべき課題や問題に対して、行政が持つ情報を積極的に市民に開示・共有し、役割分担を決めて協働の地域づくりを実践していきます。

⑬コミュニティ活動への支援

➤ 地域拠点施設の整備

【主な事業】

- 集落支援員「いっしょに頑張り隊」の派遣
- 地域づくりリーダー養成事業「七転び八起き塾」の展開、各種まちづくり講座の開催
- まちづくりセンターの開設支援



まちづくりセンター・イメージ

南砺市が実施している自治会やコミュニティ活動への支援に加え、地域住民等が主体の地域づくりに関する取り組みに対し、その拠点となる施設整備への支援や地域づくりリーダーの育成、地域人材、資産の有効活用に取り組みます。

(2) 農林業の再生と商工観光業との連携

⑦農業・農村の振興

➤ 農業経営基盤の強化

【主な事業】

- ほ場整備や用排水路等の生産基盤の整備
- 消費者ニーズに対応した安全安心で魅力的な農畜産物の安定供給
- グリーン・ツーリズムの推進
- 地域特産物の生産性の向上
- 循環型農業による魅力的な就農環境づくり、生ごみ堆肥化システム



段ボールコンポスト・イメージ

優良農地の確保と保全、生ごみの堆肥化など、安全・安心、おいしい農産物・加工品等の競争力向上を図り、市内の各種オーナー制度や観光農園の拡充など、生産者と消費者の交流機会を増やし、魅力ある産業として農業の担い手確保・育成に取り組みます。

⑧観光の振興

➤ 観光資源開発と活性化、滞在・体験型観光の推進

【主な事業】

- 地域資源発掘と観光資源のブラッシュアップ
- なんとブランドの確立
- 多様なニーズに合わせた着地型観光商品開発
- 人材育成の強化とおもてなし環境の向上
- 交流とにぎわい、情報発信機能の強化



南砺エコツアーガイド養成講座

世界遺産「五箇山合掌造り集落」をはじめとする多様な観光資源とエコビレッジ来訪者のつながりを強化し、滞在型観光を展開できるよう、エコビレッジ内に様々な情報を発信する情報センター機能を設け、来訪者のリピーター化促進に取り組みます。

⑩雇用の確保と創出

➤ 就業・雇用の対策

【主な事業】

- 新規就職者等への就職情報提供とI J Uターンの促進
- 個々に応じた職業訓練等能力開発支援
- 高齢者の熟練した技能・知識の活用と継承
- 高齢者、障がい者の生き甲斐の場の創出



就職説明会・イメージ

エコビレッジ構想を推進することで雇用の創出を図り、事業者に対して若い労働力の確保とともに、高齢者の熟練の技、経験、知恵を活かす機会の提供や地域づくり活動への積極的な参加、事業の進捗状況に応じた障がい者の採用等を促します。

(3) 健康医療・介護福祉の充実と連携

②健康づくりの推進

➤ 健康づくり事業の推進

【主な事業】

- 健康づくりボランティアの養成と地区組織の育成と活動支援
- 日常の健康管理の支援や生活習慣病予防など一貫した保健サービスを提供
- 保健センター機能の集約化と充実



スポーツ教室・イメージ

市民一人ひとりが住み慣れた場所で、心身の健康を保持・増進し疾病を予防、互いに支え合い、安心して健康で快適な生活が送れるよう、各種団体と連携し、健康教育、健康啓発活動や心の健康づくり活動、健康づくりボランティアの養成等に取り組みます。

③医療体制の充実

➤ 医療ケアシステムの構築

【主な事業】

- 医療とリハビリテーション体制の強化による在宅医療の充実、生活習慣病等の疾病予防の推進
- 救急医療体制の充実と高次救急病院との連携
- 一次救急体制の強化支援
- ヘルスケアネットワーク



ヘルスケア事業・イメージ

高齢化の進行に伴う在宅医療サービスの需要増に対し、医療機関や各種団体等の連携を強化し、地域において、市民一人ひとりが健やかで心ゆたかに生活できるよう、市民の視点に立った地域包括医療ケアシステムの実現に取り組みます。

(4) 未来を創る教育・次世代の育成

⑥ 学校教育の充実

➤ 健やかな心と体の育成

【主な事業】

- 総合的な学習の推進
- ふるさと教育推進事業
- 社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業
- 伝統・文化の継承拠点づくり



「14歳の挑戦」・イメージ

地域で守られてきた文化や慣習、エコビレッジの森や里山等の豊かな自然環境に親しむ機会を設け、子ども達の豊かな心と健やかな体を養うとともに、次代の担い手を育てる指導者の養成、高齢者の知恵や技、技術の伝承等に取り組みます。

⑦ 農業・農村の振興

➤ 食育・地産地消の推進

【主な事業】

- 学校給食の充実
- 健全な食生活の実践を図るための食育の推進
- 安全で安心な地産地消の拡大



学校給食の充実

食料の自給率向上や食の安全・安心の確保に関する市民の関心の高まりを受け、競争力のある農産品・加工品のブランド化と販路や消費の拡大を図るとともに、元気な子どもの育成や健康な暮らしを目指す食育の拡充など、地産地消の推進に取り組みます。

(5) ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進

⑥ 工業の振興と起業の誘致

➤ 起業（家）支援

➤ 新産業の創出

【主な事業】

- 起業家・ベンチャー企業の育成支援
- 産業間や異業種間の情報交流



起業家育成施設・イメージ

エコビレッジに人が集まり、付加価値の高いサービスの提供や、地場産業である井波彫刻や五箇山和紙等を活かした新商品の開発等を通じ、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなど、新たな雇用創出につながる産業の育成に取り組みます。

(6) 森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化

④定住化の推進

➤ 定住促進への支援

【主な事業】

- 南砺市定住奨励金事業の推進・拡充
- 南砺市優良住宅団地開発支援事業による民間住宅団地の造成の促進
- 雇用の場の確保や子育て環境の整備などの定住環境の総合的推進
- 定住情報の発信（I J U ターン促進）



西赤尾体験ハウス

若年層を中心に I J U ターンで南砺に暮らすことの価値を見いだす人々を受け入れられるよう、雇用の確保や子育て環境の整備、空き家やシェアハウスの情報提供、住宅・宅地の新規供給など、定住促進につなげる取り組みを進めます。

⑤自然環境の保全と活用

➤ 豊かな森づくりの推進

【主な事業】

- 住宅や公共建築物への市産材の利用促進
- 付加価値の高い木材製品の普及
- 森育てネットワーク



高付加価値木製品・イメージ

森や里山の保全と活用にあたり、森林組合を中心とする林業の総合的な地域森林施業の確保や計画的な育林、山村地域の生活環境の条件整備を進めるとともに、既存団体等と連携し、志民が楽しみながら森に入る機会を増やすことから始めます。

⑦農業・農村の振興

➤ 農村環境の保全整備

【主な事業】

- 水源の涵養、自然環境の保全など、農地の多面的機能の保持
- 住民等の協力による環境保全型農業の推進
- バイオマスの利活用の推進
- 農村文化の継承など、誇りと愛着の持てる地域づくりの推進



薪ボイラー・イメージ

集落等が所有する山林の維持管理を志民が担い、薪ボイラーの熱源に端材を活かすなど、里山の恵みを暮らしに活かす事例を通じ、快適性や利便性を保ちつつ、持続可能で環境にやさしいライフスタイルが定着するよう、意識啓発に取り組みます。

2. 桜ヶ池エコビレッジモデルの展開

2-1 モデルの基本的な考え方

1. 重点的な取り組みの論点

本構想を全市的に展開する際のモデルとして、桜ヶ池エリアの重点的な取り組みの論点を挙げると以下の通りです。



【桜ヶ池エリアにおける事業展開の論点】

①コンパクトなエリアで再生可能エネルギーを活用

クアガーデンや自遊の森などのコンパクトにまとまったエリア内で、桜ヶ池の「水」、池周辺の「森林」、一定規模の駐車場等を利用した貯雪スペースの「雪」、遮蔽物の少ない立野原台地に注ぐ「太陽」など、多様な再生可能エネルギーのより効率的な活用策を試みます。

②高い集客ポテンシャルを踏まえた機能集積

東海北陸自動車道の城端SAを中心とする桜ヶ池ハイウェイオアシスは、年間約59万人が訪れ、約369百万円の年間売上高を有しており、高速道路の上下線共有のサービスエリアである「強み」を活かしつつ、南砺の産業創出と再生、観光の玄関口としてさらなる機能集積を図ります。

③魅力的な景観と重要な立地条件の存在

桜ヶ池を中心として、山と里の交わる美しい自然環境やなだらかに広がる立野原の台地、東海北陸自動車道の線形など、本エリアの特徴的な地形や地域資源を活かし、今後、進められる再生可能エネルギーの導入や様々な施設整備等において、さらに魅力的な景観を形成します。

④多様な担い手によるさらなる協働関係の構築

戦後に進められた立野原の開拓事業は、官民の協働事業の先駆けといえます。この地に根差す開拓者精神は、今後、本構想に基づく多様な事業において、コミュニティ単位の自立と連携とともに、自治組織や事業所、営農組織など、多様な担い手の取り組みとのさらなる協働関係を強化します。

2. 桜ヶ池エコビレッジ宣言

桜ヶ池エリアの地域ポテンシャルを踏まえ、エコビレッジを実現する際の「心構え」として、今後、孫子の代にわたる取り組みを進める際に、立ち戻れる拠り所として、「桜ヶ池エコビレッジ宣言」を志民会議の総意として定めます。

【桜ヶ池エコビレッジ宣言】

桜ヶ池の造成は、山田川流域の人々の悲願でした。幾多の困難を、先人の英知と努力をもって乗り越え、成し遂げられたその功績は、今も地域の暮らしを潤し続けています。

我々は、先人から授かったこの暮らしと精神風土（土徳）を、孫子へと引き継いでいく責務があります。桜ヶ池の自然や文化を守り育て、ここで暮らすことを誇りに思える地域をつくります。

桜ヶ池の整備は、干ばつ（太陽と水）による水不足解消に備えたため池の造成であり、自然と人間の共生に向けた一大プロジェクトでした。整備事業は、官民協働の体制で臨まれ、事業当初の人力による施工を当時としては、画期的な機械施工に切り替えたことで完工した経緯があります。

本構想においても、自然と人の共生、事業推進に向けた官民協働の地域づくりと画期的な技術革新の採用など、先人の知恵と努力に学び、難事業を完成させた不屈の精神を次代に引き継いでいきたいと考えます。



3. ゾーニング

本構想を具体的にこの地域にモデル事業として展開していく上では、そこに存在する地域資源との関係も踏まえて、以下の4つのゾーンで構成しています。

1. 自然エネルギー創造ゾーン

桜ヶ池の「水」や池周辺の森から生まれる「木質バイオマス」、さらには太陽の光や熱、地熱や雪氷熱等から再生可能エネルギーを創り出し、公共施設を中心に有効活用しつつ、今後の事業展開につなげる基礎データを収集するゾーンです。

2. いのちの森創造ゾーン

森や里山の計画的な伐採により生じる木材の有効活用、山菜やきのこをはじめとする林産物や動植物など、豊かな森の恵みと生態系等を学ぶ機会など、それぞれの資源を循環させることで守り育て、活かすための新たな暮らし方を実践するゾーンです。

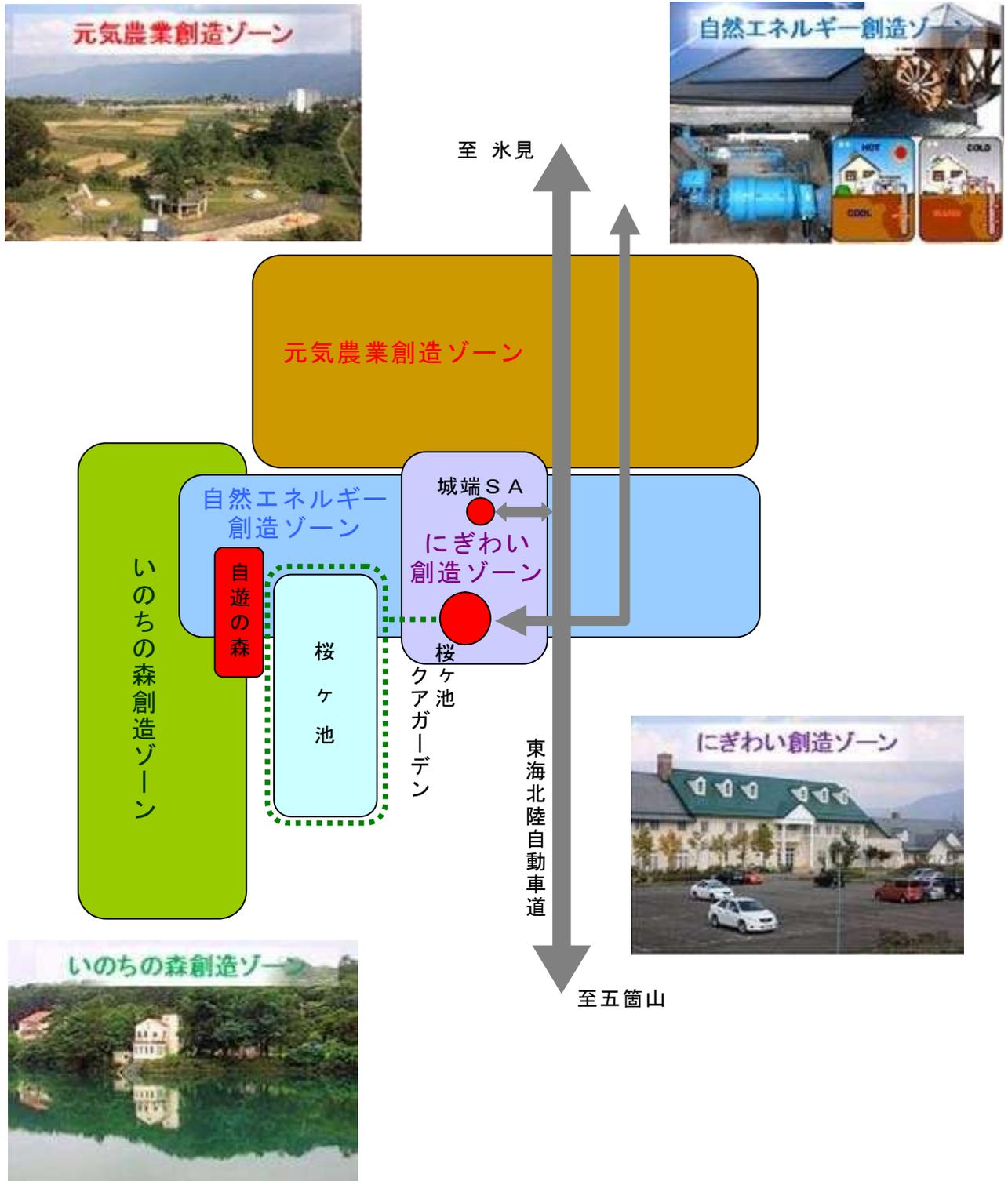
3. 元気農業創造ゾーン

食の循環により、安全・安心でおいしい、こだわりの農産物や加工品をブランドとして生産し提供する環境を整え、生産者と消費者が直接つながることで新たな価値を生み出すゾーンです。

4. にぎわい創造ゾーン

地域の内外から様々な素材を集め、医療・介護・福祉と連動した健康や教育、体験型の産業観光をはじめ、クラフト、ヘルス、エコ、グリーン等の多様なニーズに応えるツーリズムなど、ヒト・モノ・コト・情報が集まり、おカネを廻すゾーンです。

■ ゾーニング（概念）図 ■



2-2 モデルの重点事業

1. 重点事業の体系

これまでの志民会議での議論等を踏まえて、桜ヶ池エリアにおいて各ゾーンで重点的に実施する事業メニューを示すと以下の通りです。

■ 桜ヶ池エリアで実施する重点事業の概要 ■

桜ヶ池		自然エネルギー 創造ゾーン	いのちの森 創造ゾーン	元気農業 創造ゾーン	にぎわい 創造ゾーン
総 合 計 画	誇 り	③EV交通システム ・再生可能エネルギーも活用した環境負荷の低い交通システムの構築と人の交流を活性化します。	—	—	—
	元 気	—	⑤森育てネットワーク ・里山や森を活用し、森を育てる知恵や技術を共有していくことで、森や里山の環境を守り育てます。	⑦循環型農業の推進 ・立野原の農産品や加工品のブランド化、食の提供、体験農園を使った食育などにより、魅力的な就農環境を形成します。	⑨ヘルスケアネットワーク ・桜ヶ池周辺の自然や施設を活かした健康・元気づくりに取り組みます。
		—	⑥伝統・文化の継承拠点づくり ・地域の知恵や技術の継承拠点づくりを進め、南砺の技を再生、継承します。	⑧生ごみ堆肥化システム ・生ごみ堆肥化により、生産者と消費者全体の取り組みとして進めていきます。	⑩交流とにぎわい ・交流人口増加による雇用の創出を行い、IJUターナーの受け入れも視野に入れた集落の活性化を進めます。
	共 生	①エコビレッジの普及 ・自立循環型コミュニティのモデルとして発信していくとともに、地域内外と連携、連動、交流を進め、地域の誇りを醸成します。			
②情報発信機能の強化 ・ハイウェイオアシスとしての情報発信力を強化し、市内各地への誘導も行う情報発信の拠点づくりを行います。					
		④エネルギー自給率向上 ・再生可能エネルギーの導入によるエネルギーの自給率向上と必要な技術と人材の育成により、自立したコミュニティを形成します。	—	—	—

2. ゾーン別の重点事業事例

(1) 全体

①エコビレッジの普及

➤ 地域住民の誇りの醸成

【主要な取り組みメニュー】

- ・ 志民の取り組みの市内外に向けた情報発信
- ・ 「新しい暮らし方」の提案
- ・ 市内外の志民が情報交換する機会（エコビレッジミーティング等）の提供

1人が捨てる洋服は年間8.3kg
日本で捨てられる洋服は年間100万トンです。これをTシャツのサイズに換算すると51枚分を1人で捨てることとなります。

1人あたり年間で250枚のレジ袋を使用
1970年に登場したレジ袋。日本全体で1億枚以上200億枚消費されています。1枚のレジ袋は約18cmの距離からできています。

1人あたりの年間の食品トレーの使用
食品トレーは年間で2万トン生産されています。これを今年半の消費量で計算すると300億枚ものトレーを消費しています。

1人あたりの傘の保有率は4.48本
日本だけで1年間に1億2000万本の傘が消費されていると推定されています。そのうちの約半分が傘から購入されたビニール傘です。

「新しい暮らし方」・イメージ

エコビレッジにおける自立循環型の様々な取り組みを発信し、地域内外の志民が連携、交流するプログラムとして、楽しみながら意識啓発できる「新しい暮らし方」の提案や意見交換の機会を定期的に設けます。

エコビレッジの取り組みを通じ、価値観を共有する人の輪が広がることで、志民の誇りの醸成につながります。

桜ヶ池モデルの取り組みは、南砺市内だけで成立するものではなく、地域外との循環や連動も必要です。地域の循環と地域外との循環が連動し、連鎖的に広がる取り組みになるよう計画します。

②情報発信機能の強化

➤ ハイウェイオアシスの拠点機能拡充

【主要な取り組みメニュー】

- ・ ハイウェイオアシスの拠点機能強化（マルシェ（市場）や屋台村、加工・物販施設等の開設やイベント開催など、ヒト・モノ・おカネ・情報を集積）
- ・ 桜ヶ池ハイウェイオアシスと市内の主要施設との情報網の構築

マルシェ（市場）・イメージ

東海北陸自動車道の上下線利用者が一同に集える城端ハイウェイオアシスの拠点機能を強化するため、マルシェ（市場）や屋台村、加工・物販施設等の開設やイベント開催に合わせ、道路交通情報やドライブ・観光情報、旅行・ショッピング情報など、多様な情報発信機能を集積します。

また、集積した情報をもとにそれぞれの場所への誘導も行うことで、市内各地での二次展開を誘発させ、さらなる活性化を図ります。

(2) 自然エネルギー創造ゾーン

③EV交通システム

➢ 環境負荷の低い公共交通システム

【主要な取り組みメニュー】

- ・城端SA、城端駅など、市内主要施設のEV充電設備の整備
- ・クアガーデンや自遊の森、集落内における電動アシスト自転車ポートの配置
- ・なんバスやレンタサイクル等を組み合わせた公共交通システムの運行

【地区内循環交通システム】

城端SA：
➢ ソラー EV 充電設備

クアガーデン：
➢ 電気バス停留所
➢ 電動自転車ポート

自遊の森：
集落内：
➢ 電動自転車ポート

城端駅：
➢ 電気バス停留所
➢ 電動自転車ポート

※電源には再生可能エネルギーも活用

EVや電動アシスト自転車となんバス等を組み合わせ、桜ヶ池地区と市内の主要施設を連絡する公共交通システムを運営し、住む人、訪れる人の移動手段とします。

主要な交通結節点である城端SAや城端駅等にはEV充電設備を設ける他、南砺オリジナル水車による発電設備を利用し、クアガーデンや自遊の森、集落内の遊休地等に設ける電動アシスト自転車のポートの電源に活用することを検討します。

将来的には、なんバスの車両の一部の小型化・EV利用も段階的に検討していきます。

④エネルギーの自給率向上

➢ 自立したコミュニティの形成

【主要な取り組みメニュー】

- ・公共施設への再生可能エネルギー設備の導入
- ・再生可能エネルギーの導入に向けた調査・研究
- ・身の回りでできるエコな暮らしの意識啓発

再生可能エネルギー・イメージ

地域内でエネルギー需要量の大きいクアガーデンを中心とした自立・分散型のエネルギー供給システムの導入を推進します。自遊の森のコテージなど、冷暖房等の不定期な熱源供給が必要な施設には、バイオマス熱利用や地中熱利用を促進します。

公共施設中心の再生可能エネルギー活用策に加え、例えば、水車を動力とするそば粉挽きや機織り、太陽光によるゼンマイ干しや干し柿づくり、移動手段としての馬や牛の活用など、古老の知恵や技を見直し、古くて新しい取り組みを再評価し、発信します。

また、家庭や事業所における太陽光発電やバイオマスボイラー等の導入についてもなんと里山なりわい塾等の活動と連携しつつ事業を進めます。

(3) いのちの森創造ゾーン

⑤ 森育てネットワーク

➤ 森や里山を守り育てる知恵や技術の共有

【主要な取り組みメニュー】

- ・山のマイスターの調査・認定
- ・自然学校（山の暮らしの知恵講座等）の開講
- ・山まつり等のイベント開催
- ・なんと産ミネラルウォーターの製造・販売
- ・森や里山を守り育てる運動の展開（エコツーリズム等）



自然学校・イメージ

森や里山の環境を守り育てるための知恵や技術を共有できるよう、自然観察の会やナチュラルリストの会など、市内の活動団体等と連携し、森に人が入れる場（機会）づくりに取り組みます。また、子どもから高齢者まで幅広い層に、豊かな森を育てる活動（自伐、炭焼、植林等で搬出される木材は、地域の熱源や製材等に活用）、山まつりなどのイベント、小学校のカリキュラムと連携した自然学校で開講する山のマイスターによる暮らしの知恵講座（山野草やキノコ、昆虫、炭焼、林製品の料理、木遊び等）等のプログラムを継続開催します。

また、森林活動の参加者が山のマイスターとして人を育て、プログラムを拡充する他、活動資金にはなんととのミネラルウォーター等の販売収益を充てることも検討します。

⑥ 伝統・文化の継承拠点づくり

➤ 地域の知恵や技の継承拠点づくり

【主要な取り組みメニュー】

- ・暮らしの知恵マイスターの調査（子供たちを交えた80歳以上の志民インタビュー等）・認定
- ・暮らしの知恵マイスターによる職業訓練の実施
- ・南砺ブランド商品の開発（工芸等の伝統・文化の活用、養蚕等の原材料の地元調達活動等）



職業訓練・イメージ

地域の知恵や技の継承拠点づくりを進め、南砺の技を再生、継承できるよう、人材確保や事業採算に合った活動資金等の確保など、こうした新しい暮らし方をソーシャルビジネスやコミュニティビジネスとして展開することが重要と考えています。

80歳以上の人々の知恵と技の継承にあたり、継承すべき知恵や技を持つ人を認証するマイスター制度を設け、マイスターによる職業訓練やマイスターと来訪者の交流拠点の整備に取り組みます。高齢者の技や知恵を継承する作業では、子ども達ともいっしょに80歳以上の人々へのインタビューや映像、作文等での記録作成に取り組むなど、次代の担い手の育成機会となることも期待しています。

(4) 元気農業創造ゾーン

⑦循環型農業の推進

➢ 循環型農業による魅力的な就農環境づくり

【主要な取り組みメニュー】

- ・ 農産品や加工品（スイーツ等）のブランド化
- ・ 市内の物販施設での元気農業PRコーナーの開設
- ・ コミュニティレストラン、志民サロンの開設
- ・ 体験農園等での観光・食育プログラムの実施
- ・ 多様な就農プログラムの実施による担い手の確保
- ・ 農家民泊との連携



コミュニティレストラン・イメージ

立野原を中心に遊休地等も活用して、循環型農業により安全で安心、おいしい農産品や加工品のブランド化を図ります。赤土に合った作物や季節のスイーツは生産・加工・販売の関連施設を整備、物販施設で種苗コーナーを開設しPR等に取り組みます。

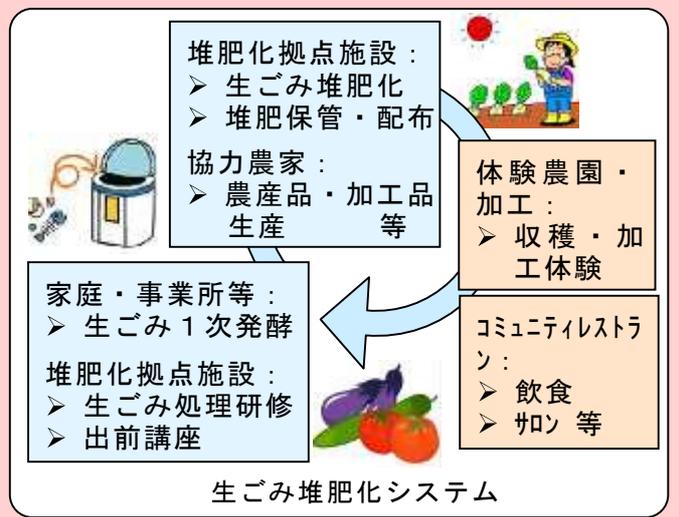
伝統料理等も味わえるコミュニティレストランでは、高齢者をはじめ、地域住民が集まれるサロン機能を併設します。地域の遊休地も活用し体験農園等の機能拡充により、小学校の食育体験や観光振興にもつなげ、より魅力的な就農環境を形成します。就農の担い手は幅広く求め、商品の箱詰めや包装等の作業などでは福祉施設入所者等との連携にも取り組みます。また、就農体験の受け入れや農家民泊のシステム化も検討します。

⑧生ごみ堆肥化システム

➢ 生ごみ堆肥化による循環型社会の推進

【主要な取り組みメニュー】

- ・ 生ごみ堆肥化システムの運用とPR
- ・ 生ごみ堆肥化、農産品等保存施設（キュアリング施設）等の整備



市内の小・中学校や保育園、公共施設、家庭や事業所の協力を得て、各所で一次発酵させた生ごみを拠点施設で堆肥化し、製造された堆肥で農産品を生産します。

生産する農産品は、堆肥化施設で発生する熱をキュアリング施設で活用し、保存した農産品を時期に応じて出荷します。

拠点施設には、生ゴミ堆肥化システム参加者のミーティングや視察の受け入れを行い、施設の拠点性を高めます。

(5) にぎわい創造ゾーン

⑨ヘルスケアネットワーク

➤ 健康・元気づくりの拠点機能の強化

【主要な取り組みメニュー】

- ・ 自然療法、健康増進事業の実施
- ・ 地区内のレストランでの薬膳等の提供
- ・ ヘルスケアツアーの実施



ヘルスケア・イメージ

桜ヶ池周辺の自然や施設を活かした健康・元気づくりに取り組みます。

具体的には、クアガーデンを中心として、自然療法や健康増進事業等の実施、さらには地域素材を活かした食養・薬膳等の提供やヘルスケアツアーの開催など、市内外から幅広く利用者を集め、健康・元気づくりの拠点機能を強化します。

⑩交流とにぎわい

➤ 交流促進による集落活性化

【主要な取り組みメニュー】

- ・ (仮称) エコビレッジセンターの開設とマルシェ、屋台村、イベント等の開催
- ・ かず良の改修によるビジターセンター化
- ・ 市内への移住希望者の受け入れ強化



既存施設の改修・イメージ

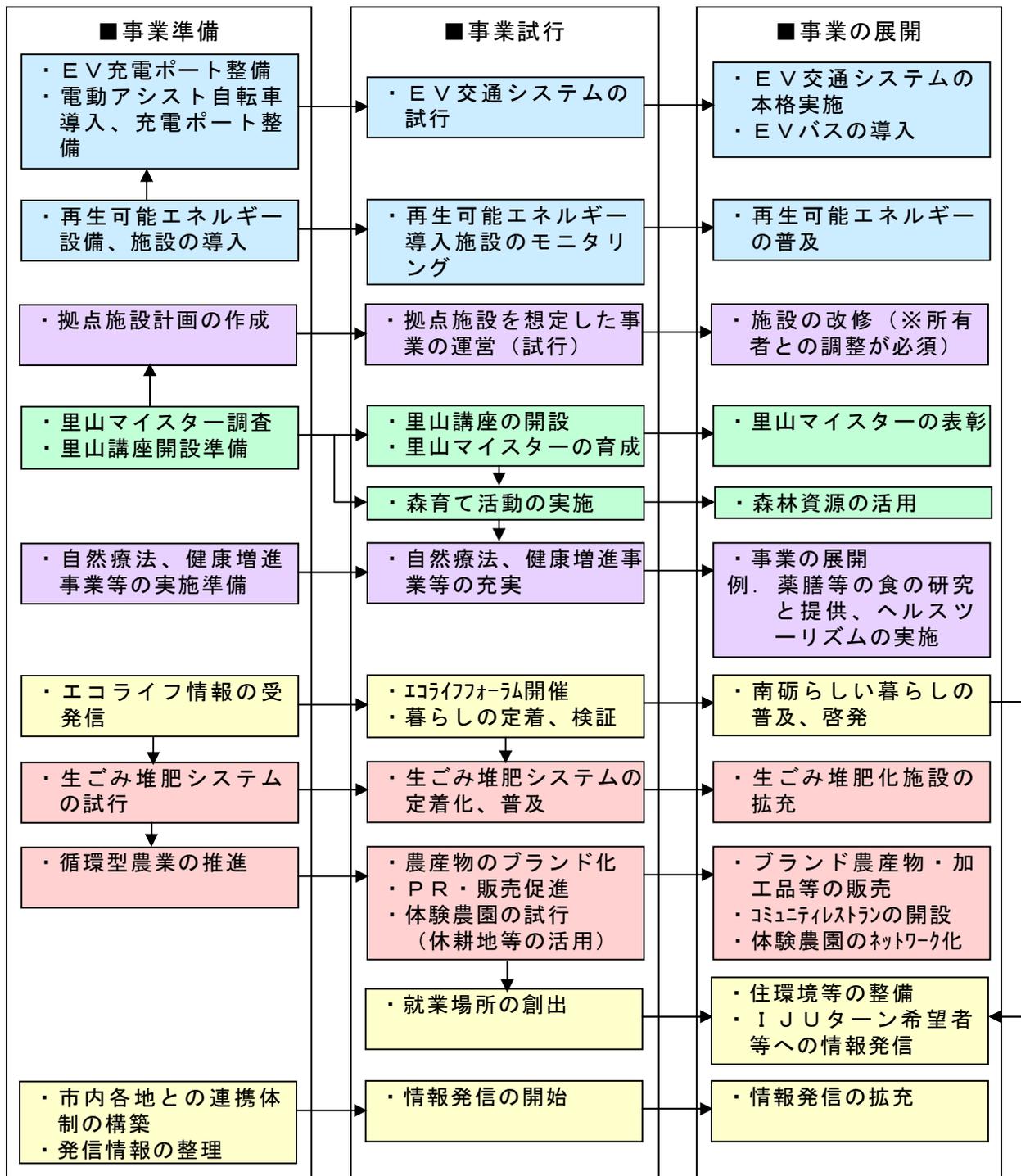
交流人口増加による雇用の創出を行い、I J Uターン者の受け入れも視野に入れた集落の活性化を進めます。例えば、官民協働で(仮称)エコビレッジセンターを設け、マルシェや屋台村、加工所等が集積し、様々なイベントが開催される場を創り上げ、ここを中心に、視察の受け入れやエコビレッジに関する情報発信を行うこと、さらには、自遊の森周辺においても、かず良をエコビレッジ研究所としてビジターセンター機能を持たせるなど、新たな交流とにぎわい拠点として整備・活用を検討します。ただし、かず良の土地及び家屋は個人の所有物であり、所有者の理解を得ることを前提としているため、事前協議等を十分に行うことが必要です。

また、交流等を契機とした定住希望者には、市内への移住情報を提供する他、季節移住や定住体験希望者に対して一定規模の住宅・宅地の提供を検討します。

3. 重点事業の全体像と今後の進め方

桜ヶ池モデルの早期実現に向けて、現時点での全体像を描くと以下のとおりとなりますが、これを着実に進めていくためには、①各事業計画の早期策定と相互関連の明確化、②全体事業を推進していくための事業体の組成と事業主体の明確化、③事業推進のため財源の捻出（地域におけるお金の活用）とそのための市、市民、地域金融機関の連携強化、といった論点を、有識者や関係者と共に、速やかに整理、解決していく必要があります。

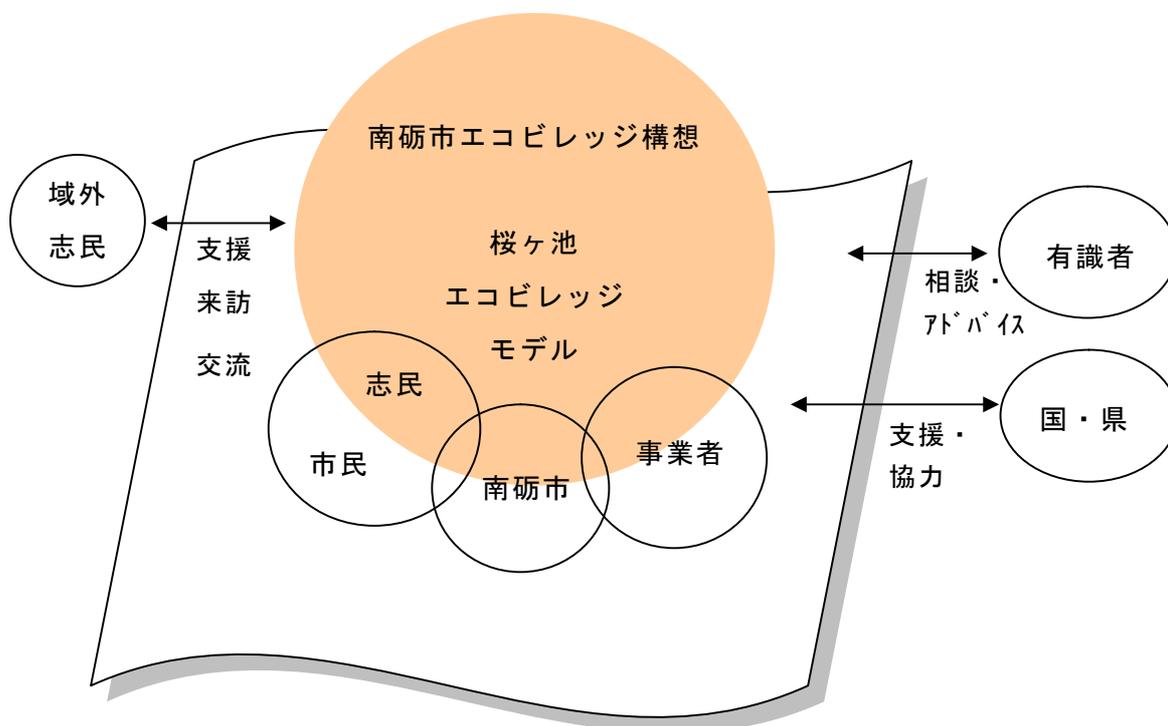
■ 事業フロー ■

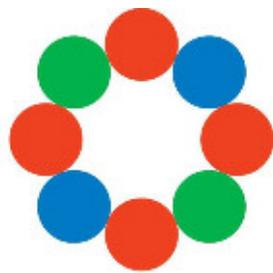


4. 事業の推進体制

本構想は、市民と志民、事業者、行政の協働により、有識者や国、県とも連携しながら推進します。

■ 構想・モデルの推進体制イメージ ■





南砺市

さきがけて 緑の里から 世界へ